平成28年度第２回まちづくり協議会　会議録	
日時	平成28年11月23日（水・祝）14：00～16：00
開催場所	野七里ケアプラザ
出席者	委員：大原座長、豊田委員、吉田(敏)委員、髙橋(勝)委員、芦川委員、吉田(純)委員、前田委員、池田委員、堀田委員、神保委員、北村委員、金子委員、川崎委員、洞口委員、 佐伯委員、亀梨委員、山口委員、髙橋(理)委員、齋藤委員、飯塚委員、神山委員 事務局：栄区区政推進課（４名） 横浜プランナーズネットワーク（４名） 傍聴者：２名
欠席者	髙橋(毅)委員、森田委員、柳澤委員、山田委員、三宅委員、森委員、内田委員
協議事項	上郷東地区まちづくり構想（骨子）について
内容	●意見交換 **＜横浜環状南線トンネル上部と旧庄戸中学校跡地の一体的な活用＞** ・横浜環状南線トンネル上部が地域の重要な資源と位置づけられており、隣接する旧庄戸中学校跡地との一体的活用は重要な取組だ。全てが市有地かはわからないが、本協議会を中心とした意見を大きく反映して取り組んでほしい。 →トンネル上部の所有は国となるが、管理先は明確ではない。できるだけ地域に還元できるよう上部活用を考える。（区） **＜目前の課題解決に取り組む＞** ・まず現実を直視しないといけない。交通不便・高齢化等の問題と向き合い、解決に向けて高齢者の居場所づくりなど、行政と町内で取り組まなければならない。 →Ｐ．２「Ⅱ まちづくりの方向」の「１ まちづくりの考え方」に、「（２）まちに足りない部分を補完する」とあるが、これからのまちづくりで必要とされている部分は、補完というより、戦略的・計画的に整備するということだ。将来を計画的に予測して対策を考えることが基本だ。（座長） **＜企業誘致と規制について＞** ・IT企業を地方に誘致する事例がある。その事例をこの地区に置き換えると、第一種低層住居専用地域などの規制が障害となる。今までの住環境を守るだけが方策ではないので、行政が率先して規制を変えてほしい。また、建築協定が地域の活性化を阻害しており、改めて考えていただきたい。 ・空き家が増え、雑草の生えた土地が増えている。土地所有者が空き地の管理をしないので困っている。消防署も対応できず、防災に対する危機感がある。

	・一概に規制を外すことは、今の住環境を守りたい住民もいるはずなので、賛同できない。 **＜翠風荘の浴場について＞** ・翠風荘のお風呂を復活させたい。連合町内会を主体として、翠風荘の風呂を復活できないだろうか。 →眠っている資源の一つと思うが、地域ごとの課題と全体の構想をうまく分けていくことも必要と思う。（座長） **＜今後の取組に向けて＞** **○分科会に分かれて検討を始める** ・今後の取組を考える必要がある。本協議会を平成 29 年度も継続するのか、今期中に何をするのか等。今期中に実績がほしい。 ・単なる「まちづくり」というよりは「地域再生」の持ち味を全面に出した方がよい。再生の大きなテーマは「まち活かし、まち育ての地域再生」。 ・まちづくり構想骨子方針１～５を分科会とし、関心のある人たちが参加して、具体的な活動にすることが必要だ。テーマによっては、官主体でないとできないこともあるが、実績のある民の活動を継続・発展させる取組もあるのではないか。 ・すぐ取り組めること、将来何年か先を見据えて取り組むことがある。すぐに取り組めることは、区政推進課が先頭に立ち、分科会にテーマを分けて具体的な実行案を作成し、少なくとも今期中に手を付けてほしい。 ・横浜環状南線トンネル上部利用は、トンネルができるまでの間に具体的な構想を練らなければならない。トンネル上部利用と旧庄戸中学校後利用とは別で考えるべきだ。分科会で早く着手して、全体会で提案してもらい再検討してはどうか。今は効率的に取り組むべき段階にあるのではないか。 **○道路とバスの問題** ・大きな道路整備計画があり、それにあわせてバス路線の見直しながされるかと思う。意見募集の際に、地元の意見がまとまっていれば、本協議会の意見が反映されていくだろう。 ・環状４号線拡幅ができるか否かで環境が大きく変わる。環状４号線沿いの土地所有者に用地取得の必要があれば、行政の交渉だけでなく地元も協力をお願いする。こういう行動が今までなされていない。

	・上郷公田線を通る新しいバスルートは、本郷台駅前から桂台を経由し、神戸橋前までと想像できる。これを延伸して庄戸を循環して戻ると環状南線の上部利用者のための足にもなる。 **○空き家活用について** ・「借家に入りませんか」というキャンペーンもあり得るのではないか。庄戸に家を借りた人が良い場所だと言って、庄戸で家を買うケースがあった。家が売りに出ればすぐに売れ、建て替えられて新しい世代の人が住んでいる。そのことから、それなりに魅力のある地域だと思う。 **○見守りネットワーク活動との関わり** ・福祉保健センターの「見守りネットワーク」の活動と本協議会の活動を分けても良いのではないか。「高齢者のためのまちづくり」では３～４年先、「若い人のための地域再生」だったら 20 年、30 年先を見ての活動になる。全体でデザインの仕方、それに誰がどのように関係してくるのか、具体的な検討を始めると良い。 **○早く進める** ・自治会・町内会の役員は１年任期。年が明けると引継ぎの体制に入ってしまうので、急ピッチでやらないと、取り組んでいる暇が無くなる。 **＜学識者コメント＞** ・今ある資源を、地域の魅力づくりに最大限活かしてまちづくりを進める基本的な方向性は、構想に反映していると思う。その上で、到達目標は戦略的に作っていく必要がある。関心のある地域の方が参加するテーマ別分科会を今年度いっぱい開催してほしい。（座長） ・恐らく高齢者が暮らしやすいまちは子育て世代にも暮らしやすいまちで、そこは一緒に考えられる。今後高齢者に係わる法制度が大きく変わる可能性がある。それに合わせて動く、というのは難しいので、市として今できることをするべきだと思う。そのためには、住民の意見を積極的に出すことが必要だ。 **＜事務局コメント＞** ・一緒に前向きに取り組んでいきたいという気持ちで骨子を示した。委員の皆様には地域で議論する場を作ることをお願いしたい。必要あれば区役所も同席し一緒に考えていきたい。
資料	・次第 ・【資料１】分科会などの活動報告 ・【資料１－別紙】まちづくり検討シートまとめ ・【資料２】旧庄戸中学校後利用に関するアンケート結果報告 ・【資料３】上郷東地区まちづくり構想（骨子）